

武雄市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

武雄市工業用水道事業の給水区域は、佐賀県の南西部に位置する武雄市内の北部、県営武雄工業団地（若木町）であり工業用水を使用しているのは4件である。

平成元年、佐賀県土地開発公社が事業主体となり、農村地域工業等導入促進法による団地として造成された。

水源は、南部にある矢筈ダム（県営）からの六角川水系・六角川の表流水を取水し、市中央部の第3浄水場及び配水池を経由、管総延長20781mで供給している。

当事業は、工業開発の推進に不可欠である工業用水の安定供給を行うことにより、地域の振興に資する目的で実施されたものである。

○事業の経緯

当市、川登地区の上水道施設が、昭和61年から平成5年の工期で平成6年に完成したが、合わせて県営武雄工業団地のために工業用水道施設が建設され、平成7年度から給水を開始した。

武雄工業団地は8区画あり（用地残1区画も、このたび誘致が決定した）、進出企業に若干の変遷はあるが、現在、工業用水を使用している企業は4企業に止まっているのが、現状である。

事業経営の健全化のためには、給水区域の拡大を図るなど、新たな給水先の確保に努めなければならないが、水を使用する企業（業種）を誘致することが必要である一方、今後は開発ではなく、現在あるものを相互活用する方向で進んでいかなければならないものと、

○ユーザーの概要

（平成19年3月1日現在）

業種	給水件数	契約水量（m ³ /日）
自動車用樹脂	1	130
フッソ樹脂外壁材	1	30
集水パイプ	1	30
その他	1	200
合計	4	390

考えられる。

○施設の概要

本事業は、矢筈ダム（県営）333千m³（工水分）を水源とし、表流水を1日最大2500m³取水、導水ポンプで第3浄水場へ送り浄水処理後、送水ポンプで容量380m³の配水池に貯水し、配水管で武雄工業団地へ給水している。布設延長は、導水7258m、送水4042m、配水9481m、総延長20781mである。

なお、給水能力は1日当たり2325m³、給水単価は1m³当たり45円である。ただし、超過水量が生じた場合、超えた部分の単価は90円となるが、給水能力の10%程度しか利用されていないのが現状である。

本事業の中心をなす武雄工業団地は、武雄市街地の北約6kmのところの位置し、長崎自動車道武雄・北方インターチェンジまで5.5kmと陸上交通の便に優れているうえ、長崎空港まで約45分、福岡空港まで約60分と空輪にも適している。

武雄工業団地は、総面積39.1haで現在7企業が立地（平成20年11月からは8企業へ増）しており、うち工業用水使用は4企業である。

そのうち、豊田合成九州㈱は、当初車内外装製品、特に自動車用樹脂やゴム製品の生産に携わり、加えて、青色発光ダイオードの製造で注目を集めていたが、工水の利用増大にはつながっていないのは残念である。

工業用水未使用企業のうち、㈱九州トリシマは、主要製品が各種小型ポンプ及びポンプに付属する機械装置の生産であるが、国内大手ポンプメーカー西島製作所の現地法人工場であり、創業者の先代社長は佐賀県塩田町出身である。㈱サニックスは、食品工場向け洗浄水循環装置、冷塩水処理装置等の生産を行っており、業界トップ企業である。両企業とも水道関連の業種といえる。

○事業の特徴、アピール等

武雄市は、企業立地の促進に関して全国に先がけ水特区を創設し（武雄市企業立地促進特区指定に係る奨励に関する条例（平成17年5月2日県指定第1号））、

事業税や固定資産税を5年間免除，続く5年間で半分に減額するなどの優遇措置を図っている。

また現在，第2工業団地の適地調査を実施しているところであり，平成19年3月の企業誘致基本計画の策定に向けて，鋭意努力しているところである。

○武雄市水道部のホームページアドレス
suidou@city.takeo.lg.jp

